

国見中 だより

第1号 2025.5.9
文責 校長 陣内美紀



5月の雑感

4月に赴任して、はや1か月がたちました。驚くべきは子供たちのあいさつの爽やかさです。ほとんどの生徒が元気よく明るく、時に笑顔であいさつをしてくれます。

また、いろいろな場面で「ありがとうございます」という言葉を耳にします。少し言葉を交わしただけでも「ありがとうございます」、プリントを配っても「ありがとうございます」、1日に何回「ありがとうございます」を耳にするでしょうか。

自分の中学生時代をふりかえてみると、校内暴力のまっただなか、「ありがとうございます」どころかあいさつすらきちんとしていただろうかと思います。そのころは全く分かっていませんでしたが、大人になるとあいさつの大切さや自分の周りにどれだけ迷惑をかけていたか、どれだけ支えてもらっていたか、その有難さに気づきます。その意味では、国見中の生徒はもうすでに社会の一員として、大切にされる資質を身につけていると思います。

感謝の気持ちは強制されて表れるものではありません。本当に言わなければいけない人にはなかなか「ありがとうございます」とは言えないものだったりもします。日ごろからご家庭で「ありがとう」の言葉が聞こえているからこそ、自然に子どもたちの口からそういった言葉が出るのだらうと思います。

子どもたちから「ありがとうございます」の言葉のシャワーと明るいあいさつで、何日分ものエネルギーをチャージさせてもらっています。子どもたちとそれを支えていただいているご家庭に感謝です。

体育大会間近

連休を挟んで体育大会に向けた練習が行われています。リーダーを中心に本当によく頑張っています。1年生は小学校との違いについていくのも大変だと思いますが、この大変な期間を我慢しながら自分を鍛える時期を乗り越えることで、ようやく中学生らしいたくましさ身につけていきます。

また、2年生は上級生として1年生の手本となり、来るべき来年度の最上級生としての準備をしています。立派な3年生の後姿を見ながら、3年生を支える土



台として頑張ってくれています。

そして3年生は、さすがです。返事や集団行動の動き、下級生をまとめる言葉かけ、すべてにおいて義務教育3年間の集大成ともいべきリーダーシップが取れています。

各分団のリーダーと意気込みを紹介します。(省略)